

# 「森林と生活に関する世論調査」から見えた 森林に対する国民の期待



今年5月に行われた「森林と国民に関する世論調査」。  
この結果から見てきたのは、国民の皆様の森林に対する大きな期待でした。  
6つのポイントを軸に、今回の調査結果を紹介します。

## 調査結果から垣間見えた 国民の皆様の関心の高まり

今年の五月二四日（木）から六月三日（日）、内閣府において「森林と生活に関する世論調査」が実施されました。調査対象は全国の二十歳以上の男女計三〇〇〇人で、回収率は六〇・九%（対面による調査）。森林への親しみや森林の役割、政府が取り組むべき方針などの調査項目を設け、国民の皆様の森林と生活に関する意識を把握し、今後の施策の参考にすることが目的です。前回は平成十五年十二月に同様の調査が行われました。

今回の結果の大きな特徴は、国民の皆様の多くが森林に親しみを感じ、また、森林や国有林に期待する働きとして「地球温暖化防止」との回答がもつとも多かったことが挙げられます。この結果は、豊かな景観や自然環境を楽しみながらも、来たる京都議定書の第一約束期間に向けて森林が二酸化炭素の吸収源として大きな役割を担っていることについて、国民全体の認識が高まっていることをあらわしているといえるでしょう。

今後、「美しい森林づくり推進国民運動」やさまざまな緑化行事を通じて、ますます国民の皆様との理解と協力を深めていくことが重要です。

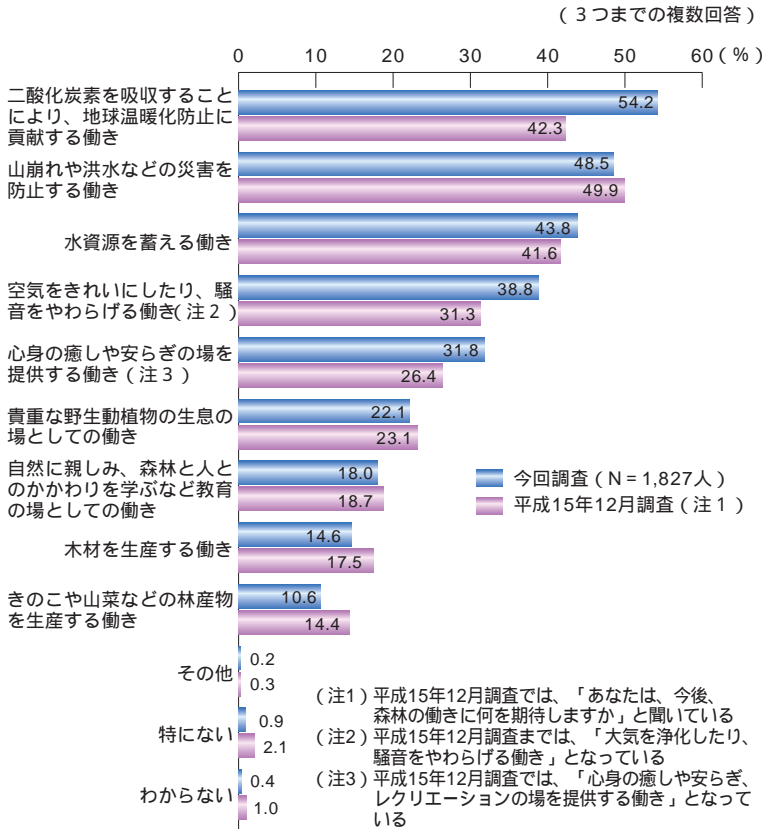
## 森林への期待

地球温暖化防止への強い関心が表れる結果に

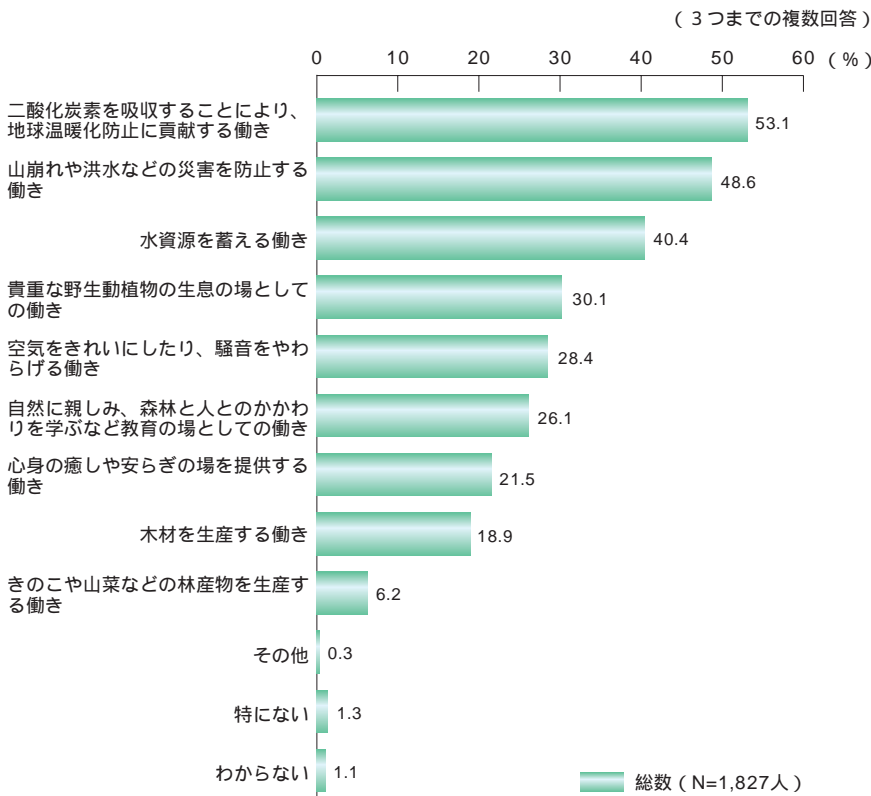
「森林に期待する働き」でもっとも多かった回答は、「地球温暖化防止に貢献する働き」で五四・二％（グラフA）。「国有林に期待する働き」

の回答でも、五三・一％を占めました（グラフB）。前回までの調査で継続して第一位の回答だった「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」を抜いたことから、近年、国民の皆様の森林の働きに対する意識に変化が見て取れます。これは、京都議定書の第一約束期間（二〇〇八年から二〇一二年）が間近に迫る中で、地球温暖化防止についての国民的な関心が高まっていることの結果

グラフA あなたは、今後、森林のどのような働きを期待しますか？



グラフB あなたは、今後、国有林にどのような働きを期待しますか？



われと思われず。

その他の「森林に期待する働き」には、「水資源を蓄える」、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげる」、「心身の癒しや安らぎの場を提供する」など、森林が持っている公益的な機能に期待が高く、特にリラックスやヒーリングといった精

神安定機能などが、前回の調査よりポイントが上昇しています。また国有林に期待する働き」では、これらに加え、「貴重な野生動植物の生息の場」、「自然に親しみ、森林と人のかかわりを学ぶ」などへの期待が比較的高くなっています。

ポイント2

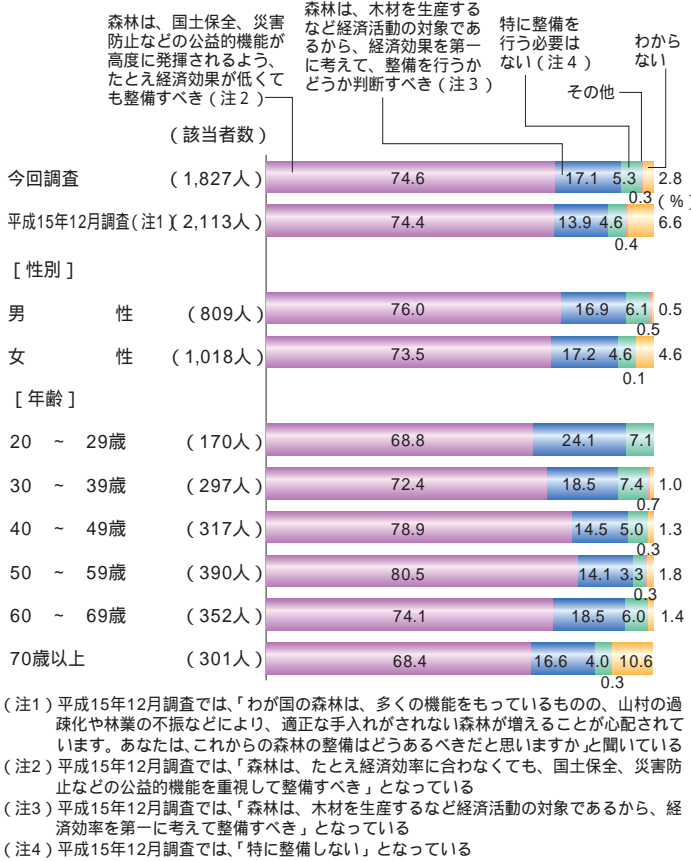
森林整備

森林整備支援の必要性と費用負担に対する理解

「森林整備のあり方」についての問いでは、「公益的機能が高度に発揮されるように、たとえ経済効率が低くても整備すべき」が七四・六％（グラフC）と、前回同様に高い割合を占めています。これは、国民の多く

が、森林の持つ公益的機能の発揮のために森林整備の必要性を感じていることのあらわれと考えます。また、「森林整備の方法」についての問いでは、「森林所有者に対して補助金交付などで支援」と「森林所有者に代わって意欲ある者が整備」が多く、合わせて六〇％以上となりました。このことから、森林整備は所有者だけの問題でなく、国民全体の問題であるとの認識が広がっていることがわかります。

グラフC あなたは、森林の整備はどうあるべきだと思いますか？



ポイント3

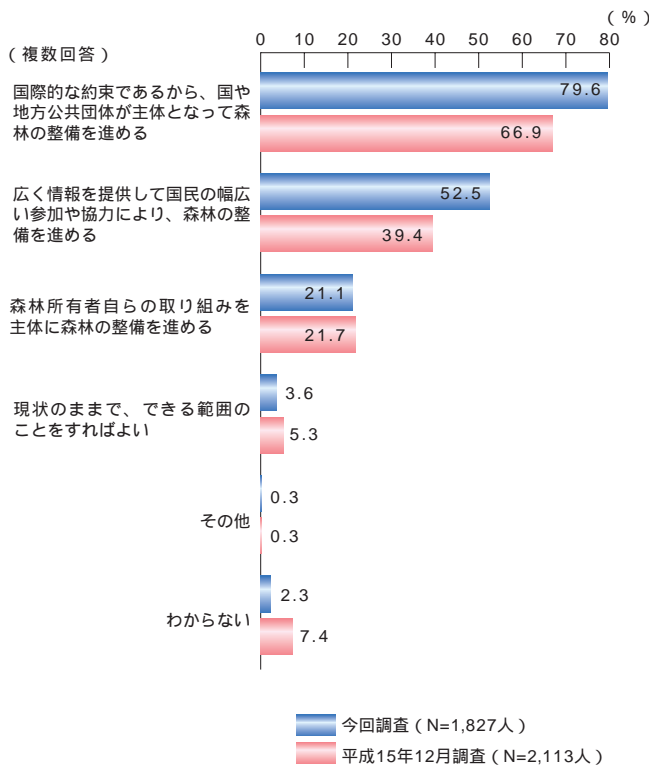
地球温暖化防止のための森林対策

地球温暖化防止のための森林整備に強い関心

「今後、地球温暖化防止対策を進める上で、誰が主体となって森林整備を進めるか」の問いには、八〇％の人が「国際的な約束であるから、国や地方公共団体が主体となって進める」と回答（グラフD）し、前回調査よりも一三ポイント増加している。

ます。また、費用負担については、温室効果ガスを排出する割合に応じて企業や国民が負担する「（五五％）」「森林の恩恵は広く国民全体に及ぶことから、国民全体で負担する」（五四％）と原因者負担の考え方がそれぞれ五割を上回っており、いずれも前回より増えています。このことから、地球温暖化防止対策として森林整備を推進していくための費用負担については、回答者の多くが国民の間で何らかの負担をすべきとの考え方であることがうかがえます。

グラフD 地球温暖化防止のための森林対策



ポイント 4

## ボランティアへの関心

### イベント体験から活動への参加へ

「森林ボランティア活動」の項目では「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」が合わせて五四・八%と、前回調査の四〇・七%から大幅に上昇(グラフE)。約半数が森林ボランティア活動への参加意向を示していました。

また参加したいと答えた方に参加形態を聞いたところ、前回の調査結果と首位が入れ替わり、「イベントへの参加」から「団体などの活動に参加」がトップに(グラフF)。これは、イベント体験から実際の活動への参加へと、国民の森林ボランティア活動への参加意識が高まっていることのあらわれと考えられます。

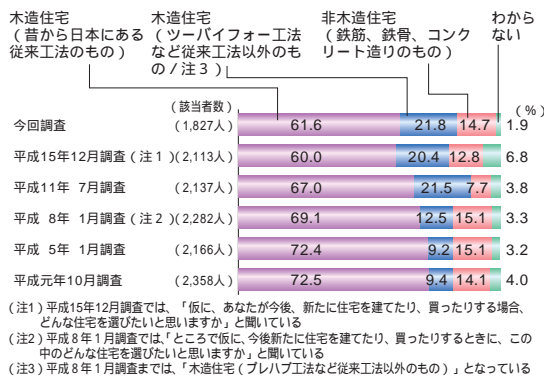
ポイント 5

## 木材利用への意向

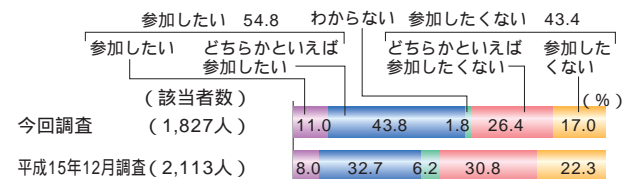
### 国産材利用への関心と木造住宅への興味

「国産材利用が森林の整備に役立つと思うか」との問いには、八〇・七%が「はい」と回答しました。国産材の利用と森林整備には密接な役割があり、森林整備を行うには国産材の利用が不可欠であることに、理解を示していることがわかります。また「どんな住宅を選びたいか」の問いの、「在来工法の木造住宅」が前回同様トップとなり、木造住宅への関心が高いことが感じられました(グラフG)。

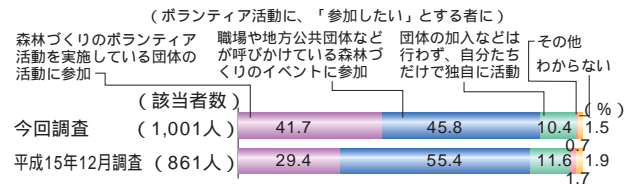
グラフG あなたが今後、住宅を建てたり、買ったりする場合、どんな住宅を選びたいと思いますか？



グラフE あなたは、森林ボランティア活動に参加したいですか？



グラフF どのような形で森林ボランティア活動を行いたいですか？



ポイント 6

## 木質バイオマスの利活用

### 多くの方々が木質バイオマスを何らかに活用すべきと回答

「木質バイオマスの利活用について今後取り組むべき方策は」の問いでは、「紙やボード類の原料として利活用」(五八%)が最も高い割合を示したほか、「エネルギー源としての利活用」(四八%)、「燃料用エタノールに加工するなどの燃料としての利活用」(四五%)、「堆肥や家畜の敷料としての利活用」(四四%)等、何らかの利活用が必要とする回答が多くみられ、「特に利活用する必要はない」(二%)という回答を大きく上回っています(グラフH)。特に「エタノールに加工する」の回答は、前回調査の同様の質問にくらべると二〇ポイント以上の増となっており、関心の急速な高まりがうかがえます。

グラフH 木質バイオマスの利活用策

